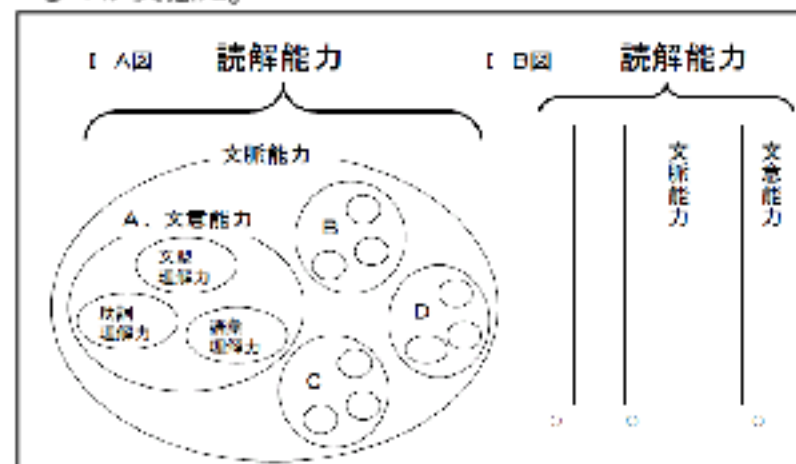


必読！合格に必要な三大条件とは 今からできる国家試験合格のために

外国人を介護・看護分野に登用する国家試験の結果は、非常に低い合格率を毎回示している。本月報では、「なぜ、合格率が低いのか？」と、「なぜ、合格率が伸び悩むのか？」とに焦点をあてて考えるために、【外国人に対する外国語の教育のあり方】を中心として述べていく。

1、【読解能力を養う重要性】

日本社会の中で外国人が仕事を行うためには、業務上必要な日本語力が無ければ、その業務の必要人材としては不要であり、多大な経済的・人的負担をしてまでも、外国人を受け入れる必要は全く無い。現在の介護・看護分野における「外国人のための国家試験対策の教育」は、全く総合的な視点で捉えておらず、ただ、直面する国家試験のみを中心とした教育を行っているのが実態だ。



その結果、仮に合格したとしてもその合格者は、「職域で日本語を使った業務遂行能力」が全く無く、使い者にならない。そのために、合格後に日本語能力の習得を再教育しなければならない事態になっている。現在、全国の合格者の中では、このことが大きな問題として持ち上がっている。この矛盾を解決するためには、以下の視点で外国人教育をする必要がある。

A、「国家試験対策の教育を言語教育の視点から行う」

ただだんに、過去問題や専門用語の暗記などに終始する教育方法ではなく、【国家試験問題を正しく読み理解できる読解能力を養う】ことを目的とした教育を行う必要がある。その結果、試験対策の中で【読解能力】を中心とした言語能力の習得を行うことにより、「合格した後は、同時に実践力のある人材を確保すること」ができる。

B、「受験生に対して過度な教育は不要」

過去問題指導や専門用語を教えることは、受験生が成人であることを考えれば、全く不要な教育方法であり、また外国人にとって漢字習得をきっかけに、日本語に対する嫌悪感を持たせることとなり、国家試験自体に対しても意欲が喪失してしまう方法だ。

人間が成人となれば、「自我意識を確立しており、自己判断によって行動を決定すること」は、当然のことだ。このことを考慮せずに行うことは、「日本人に対する教育と、外国人に対する教育の違いを理解していない」と言える。世界的にみれば、諸外国の教育形態は、「教えて憶えさせる」のではなく、「教えて考えさせる」か、「気づかせて学ばせる」かの教育が大勢を占めており、人格を尊重した上で、「個人の能力を引き出すための教育」を、年少時代から受けていることを知るべきだ。

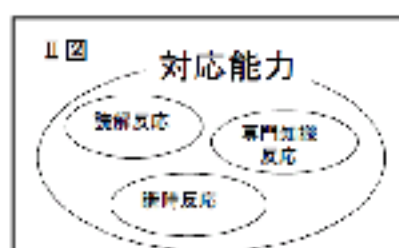
よって、現在行われている教育方法は、「外国人に対応できる教育では無い」ことが、ここではっきりと分かる。そのために、日本語教育の方法は、「教えて考えさせる」か、「気づかせて学ばせる」かの視点から、国家試験対策の教育を行う必要がある。

C、「自学能力を養う重要性」

外国人で成人である受験生に対して、「教える姿勢」をとるのではなく、あくまでも【自分自身で日本語を学ぶ姿勢】をとらせることが重要だ。そのために絶対必要なものは、「自学できる教材が必要」であり、そして、その教材の中に【日本語の規則性と用法ならびに、その運用】が記載されているものを使えば、外国人で成人である受験生は日本人の指導を常時受けられなくても、自分自身の中で日本語力を習得していく方法を身につけることができる。さらに、「自学能力を養う」ことは、試験合格の後においても、日本社会や職域の中で多大に学ぶものがある以上、この能力が絶対不可欠なものであることを認識することが必要だ。【読解能力】は、前述した内容の基本的な言語能力であることを、大前提として捉えなければならない。【読解能力】を身につけることによって、同時にコミュニケーション能力が身につく、業務に必要な文書作成能力をも身につけることができる。

I-A図は、【読解能力】が脳の中でどのように形成されているかの「言語技能別図」であり、I-B図は、文書化された場合の「文意と文脈能力の違い」を表しており、それを理解する【読解能力】が成立する過程を表しているもので、このことを理解する必要がある。

2、【対応能力を養う】重要性



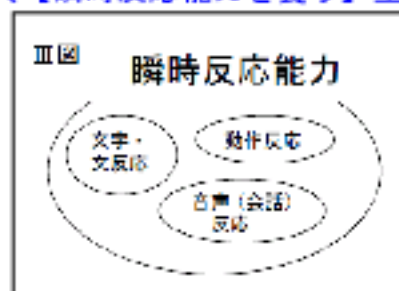
言語教育での【対応能力】には大別して、「読解反応」と「専門知識反応」とがあり、この二つの反応能力を「瞬時に反応させるための瞬時反応」能力がある。

「読解反応」は、「文意と文脈」を正しく瞬時に、読み理解できる能力を養う必要があり、そして、専門知識反応も同様に正しく語彙理解でき、「文意と文脈」に合わせて専門語彙を使い分けする

能力が必要となる。これらの反応能力を教育指導する場合には、十分認識した上で、受験生の言語能力に合わせて、段階的に反応能力を養う必要がある。

このことにより、「国家試験受験能力」を養うこととなり、同時に、業務遂行のための実践力を養うことともなる。II図は【対応能力】を大別した図であり、同時に言語能力の技能図でもあるので、この内容を理解した上で、外国人に対する言語教育を行う必要がある。

3、【瞬時反応能力を養う】重要性



【瞬時反応能力】には、「文字・文」に対する反応や、「音や声や会話など」に対する反応、そして、視覚で捉える「動作や物事の動きなど」に対する反応などがある。これらは、人間が持つ五感（聴覚「耳」・視覚「目」・触覚「肌」・味覚「舌」・嗅覚「鼻」）に基づいた反応能力であることが分かる。

人間はどの民族においても、【言語習得過程】において全く同じ過程を、この五感を中心としてたどって行くことに注目しなければならない。

現在行われている「外国人のための国家試験対策教育」の実態は、この【言語習得過程】を無視している。例を挙げると、第一に、マークシート方式であるために、過去問題中心の「記号選択教育」を行っており、第二には、専門用語の「暗記教育」を中心に行っており、そして、第三には、「受験テクニックの教育」を行っている。

【言語習得過程】を無視した外国語教育は、仮に合格したとしても【対応能力】と【瞬時反応能力】が養われていないために、「使えない外国語教育を受けた教育」となる。あえて言えば、我々が受けた英語教育は、まさにこれと同じで、その教育結果は「使えない英語教育を受けた日本人」と言える。このことを考えると、現在行われている国家試験対策の教育は、教育効果が上がらない原因を持っているもので、全く意味が無いことを証明している。

三年間の教育がこれ？！

※ 今回の「施設の声」には、全国各地から【アンケート調査結果に対する解析について】、共感や賛同の意見が多分に寄せられました。

紹介する施設の声は、寄せられた声の中から特に、特色があるものを選び、各施設の対応に参考になるものをご紹介します。

結果を出せなかった日本語教師は解雇！！

多大な金額負担をして日本語教師を雇ったにも関わらず、二名の受験結果は足きりでも厳しい。結果を出せなかった日本語教師は、4月から解雇することにした。結果が出て、改めて施設の経済的・人的負担の大きさを感じている。

(岩手県・S施設)

合格者が他の施設に移動した！！

他施設から聞いた話だが、「苦勞して合格させたにも関わらず、よその施設に移動した」と言われ、大変驚いている。

人的・経済的に大きな負担をした施設に、合格しても定着しないことは「何をしているのかが全く分からない」と感じている。

これは受け入れ施設に何一つもメリットが生じないので問題だ。厚労省はこの問題が生じないようにするべきだ。

(長野県・F施設)

結果解析に納得！！

前号のアンケート結果に対する解析は、具体的で納得のいく内容だった。本当に大きい負担をして、日本語学校に通わせたが、あまりにも経済的・人的負担が大きいために、今後の受け入れに対しては前向きに考えられない。(東京都・M施設)

合格しても、再教育が必要！！

自己採点では、合格ラインに達している。しかし、受験勉強はマークシート方式で記号を選ぶだけであったために、業務に必要な申し送りや介護日誌記録などが書けないでいる。そのために、本人は合格しても日本語力が心配なので業務に支障が起こると自覚している。そのため、施設の自己負担となるが、日本語力の再教育が必要だと感じている。

(大阪府・N施設)

3年間も教育をして、言葉が通じない！！

見えない部分の人的・経済的負担が大きすぎる。そして、3年間も滞在して最後まで言葉が通じない壁に悩まされたので、今後の受け入れはしない方向。今いる二名とも不合格が確定している。3年間も教育を行った結果が、この有様だ。合格させられなかった日本語教師には、だまされた気持ちをもっている。さらに、職員の仕事量がかさむだけでとにかく大変だった。

(栃木県・N施設)

人的負担の大きさを意識！！

施設の経済的・人的負担の大きさが、結果解析で具体的に分かった。今まで人的負担のことは念頭になかったが、今回のアンケート結果でそのことを意識するようになった。

試験結果は、一名は何とか合格できそうだが、合格者を戦力にするためには、まだ問題がありそうだ。今後の受け入れは前向きに考えているが、教育結果が出ない日本語学校に入れたり、日本語教師を雇う気は無い。(和歌山県・T施設)

3年間もかかって教育効果が上がらない！！

施設負担金の中で、日本語教師に対する報酬が一番多かった。それにも関わらず、国家試験に確実に合格するまでには至っていない。

3年間も教育をし、合格させられない日本語教師には今後教育を頼めない。(広島県・S施設)

戦力にしなければ意味が無い！！

本当に経済的・人的負担が大きいという一言につきる。「受け入れる以上は、戦力にしなければ意味がない」と月報を読むに従い思うようになった。今後は、御社の試験制度を利用して、しっかりと戦力にしたい。(岡山県・G施設)

【国家試験受験能力到達度試験】 予約制のお知らせとご案内

- 去年1月に初めて行われた「外国人介護福祉士候補者」国家試験合格者は、95名中わずか36名でした。その中で、弊社が実施して参りました【国家試験受験能力到達度試験】の参加者の占める割合は52.7%に達し、合格者数は、36名中19名にも上りました。
第二回目の今年1月に行われた国家試験については、この能力到達度試験の参加者の90%がすでに、国家試験合格能力に達しています。
- 合格率が非常に高いために、これらの実績が評価されて、介護施設ならびに病院からの参加申し込みが多くなって参りました。3月現在では、今年12月に受け入れ予定の施設からも、はやばやと、この能力到達度試験に参加の意志を表明されている施設が多くあります。
- しかしながら、この現状を考えて弊社としては、この能力到達度試験の参加者に対する【教育効果と指導の質を落さない】ために、残念ながら、定員枠を設けざるを得なくなりました。その定員枠は下記の通りとさせていただきます。

※ 介護分野での定員枠は、60名まで。 ※ 看護分野での定員枠は、40名まで。
- 上記の定員枠を設けざるを得なくなりましたので、関係者の方々には、このことを十分ご理解頂きご了承下さい。なお、予約を御希望の方には、先着順位でお受け致しますが、定員となり次第、受付を締め切らせて頂きますので、ご理解下さいますようお願い申し上げます。
- 予約手付金を支払った予約者には、受講開始前でも「教育に関する相談を受けること」ができますので、確実に国家試験合格に向けての計画を立てられます。また、受験者の能力に合わせて個人指導の仕方についても相談できますから、「合格への道」がより確実なものとなり、合格確率が高まります。是非、この予約制をご利用下さい。

-----【国家試験受験能力到達度試験 予約申し込み書】-----

施設名：	責任者名：
住所：〒	TEL：
	FAX：
	メール：
参加者国籍：	人数：
参加者入職期：	受講開始予定日：
参加費用： @ 190,030 円 × 人 合計 円	
予約手付金： @ 40,000 円 × 人 合計 円	
【振込先】 りそな銀行新宿支店（店番）299（普通口座）3452018 小木 幸子 (振込み手数料は参加者負担)	

- ※ 1、受講開始は、参加費用のうち、予約手付金を引いた残金、150,030円が振り込まれて確認された後に、「教材一式」と「初回レベル試験問題」ならびに、「学習計画表」、「教材指導書」などを着払いにてご送付致します。
- ※ 2、予約手付金が振り込まれずに、参加予約申し込み書だけの場合には、予約手付金を支払っている施設・病院を優先して、予約者と致しますので、ご了承下さい。

＜お問い合わせ先＞ ことばの研究社 小木まで TEL：03-6317-6009

推薦教材

「自学能力を養う」ための有効な教材紹介！！

学習者が勉強したくなる！ 楽しく・分かりやすい専門教材 》

【教材の特徴】 ① 視覚的に学べる

② 日本語の「規則性と用法」が学べる

【基礎言語能力レベルⅠ】

③ 漢字も類推して読める

④ ストーリー性があり、体系的に作られている



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

日本語の基礎知識を身近な事例で、分かりやすい文で書かれており、特に「だれが・なにを・どこで・いつ・どうする」を使って、「規則性と用法」が学べ、自在に会話力が身につく内容になっています。

※ 習得漢字数 310字～620字
※ 習得語彙数 520語～1,560語



【漢字のーと(1)】

□
『100万人の日本語No.1』に沿った構成となっており、「文型・文の作り方」を習得しながら、効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適です。また、中国人学習者にも同様です。



【ひらがなのーと】

□
ひらがな文字の習得に最適な教材です。字形や書き順練習だけでなく、日本語の基礎となる「質問と答え」の仕方に絶対必要な発話方法が学べます。身近な事例を使って学習でき、社会生活に必要な語彙も同時に学べ使える教材です。



【ひらがなカード】

□
表裏にはひらがな文字が一文字ずつ書かれて、裏面にその文字を使った語のイラストが色鮮やかに描かれています。イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら、自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習に最適な内容になっています。

【基礎言語能力レベルⅡ】



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

□
会社や学校、家庭内など場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。さらに、本テキストを終了すると、「自分の思いや考え」を意志表現できる能力が身につくように作られています。各ページで、日本語のあらゆる規則性と用法が自学できます。

※ 習得漢字数 420字～840字
※ 習得語彙数 570語～1,710語



【漢字ノート(2)】

□
『100万人の日本語No.2』に沿った内容で、漢字習得と文の作成練習だけでなく、文書に対する読解力も、同時に養えるように作られています。漢字の「へん・つくり」の付録もあり、「漢字の成り立ち」に対する理解が、できる内容となっています。非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適です。また、中国人には、日本の漢字を理解させる特徴があります。

【レベルⅠとレベルⅡの違い】

レベルⅠは、日本語を学ぶ上で重要な「規則性と用法」を学習して、【聞く・話す・読む・書く】を基本とし、日本人と同等の力を養うことができる能力を育てます。レベルⅡは、会話文を中心に「思いや考え」を日本語で表現できる能力を養います。



【カタカナノート】

□
カタカナ語を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは、説明文と会話文が繰り返し使われて作られています。場面を紹介する文は、外資系の理解と、その言い回し練習をしながら、練習問題によって、読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

【生活言語能力レベルⅢ】



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

□
テキストNO1とNO2とは違い、NO3では職場での日本語力が発揮できるように、限られた登場人物の日常的な生活と仕事を通して、「日本語の使い方(運用)」力が養えるように作られています。そして、登場人物を通じて、会社での習慣や礼儀作法なども合わせて理解できることが特徴です。

※ 習得漢字数 850字～1,200字
※ 習得語彙数 1,110語～3,330語

【レベルⅢの特徴】

日本独特な表現、特に「語感」を習得し、人間関係を考慮した専門領域での日常会話ができる能力を高め、職場での意思伝達ができるようになります。語の種類と文の種類を使い分けながら、要約する能力を養うことで、職場での報告書やレポートが書ける能力が身につけられます。また、日本事情の知識も得られるのが特徴です。

学習段階	教材一覧	価格
レベルⅠ	「ひらがなカード」	¥1,050
	「100万人の日本語No.1」	¥2,550
	「ひらがなのーと」	¥1,800
	「漢字のーと 1」	¥1,360
レベルⅡ	「100万人の日本語No.2」	¥2,550
	「カタカナノート」	¥1,360
	「漢字のーと 2」	¥1,360
レベルⅢ	「100万人の日本語No.3」	¥3,000

※ 送料は別途

※ お問い合わせは弊社まで。 FAX : 03-6677-0632

メール : kotoba_ker@yahoo.co.jp